

Oracle® Database

Client クイック・インストール・ガイド

10g リリース 2 (10.2) for Microsoft Windows (64-bit) on Intel Itanium

部品番号 : B25682-02

原典情報 : B14315-02 Oracle Database Client Quick Installation Guide 10g Release 2 (10.2) for Microsoft Windows (64-Bit) on Intel Itanium

2006 年 4 月

このマニュアルでは、64 ビット Windows システムに Oracle Database Client 製品をすばやくインストールする方法を説明します。次の内容について説明します。

1. このマニュアルの概要
2. ハードウェア要件
3. ソフトウェア要件
4. Oracle Database Client ソフトウェアのインストール
5. インストール後の作業
6. ドキュメントのアクセシビリティについて
7. サポートおよびサービス

1 このマニュアルの概要

注意： このマニュアルでは、Oracle ソフトウェアがインストールされていないシステムに Oracle Database Client をインストールする方法を説明します。このシステムに Oracle ソフトウェアがすでにインストールされている場合は、インストール手順について『Oracle Database Client インストール・ガイド for Microsoft Windows (64-bit) on Intel Itanium』を参照してください。

このマニュアルでは、新しい Oracle ホーム・ディレクトリに Oracle Database Client をデフォルトでインストールする方法を説明します。次のインストール・タイプのインストール方法を説明します。

- **InstantClient:** Instant Client 機能を使用する Oracle Call Interface アプリケーションに必要な共有ライブラリのみをインストールできます。このインストール・タイプは、他の Oracle Database Client のインストール・タイプに比べ、非常に少ないディスク領域で済みます。

Instant Client には Instant Client Light が含まれます。アプリケーションでアメリカ英語のみのエラー・メッセージが生成される場合は、このバージョンの Instant Client を使用することもできます。Instant Client Light を使用する利点は、通常の Instant Client よりもフットプリントが小さいことです。アプリケーションでロードする必要がある共有ライブラリは、通常の Instant Client が使用する 216MB に対して、Instant Client Light では 30 ~ 32MB で済みます。したがって、アプリケーションで使用するメモリーも少なくなります。

- **管理者:** アプリケーションを、ローカル・システムまたはリモート・システムの Oracle データベースに接続できます。また、Oracle データベースを管理するためのツールが提供されます。
- **ランタイム:** アプリケーションを、ローカル・システムまたはリモート・システムの Oracle データベースに接続できます。

関連項目： Instant Client 機能の詳細は、『Oracle Call Interface プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

追加インストール情報の入手先

Oracle Database Client のインストールの詳細は、『Oracle Database Client インストール・ガイド for Microsoft Windows (64-bit) on Intel Itanium』を参照してください。

このマニュアルは、インストール・メディアに含まれています。アクセスするには、Web ブラウザで、CD-ROM のトップレベル・ディレクトリ内にある welcome.htm ファイル、または DVD の client ディレクトリを開き、次に「ドキュメント」タブを開きます。

2 ハードウェア要件

表 1 に、Oracle Database Client に必要なハードウェア・コンポーネントを示します。

表 1 ハードウェア要件

要件	最小値
物理メモリー (RAM)	1GB 以上
仮想メモリー	512MB
ハード・ディスク領域	280 ~ 855MB。詳細は、表 2 を参照してください。
ビデオ・アダプタ	256 色
プロセッサ	Intel Itanium 2 以上

2.1 ハード・ディスク領域の要件

ここでは、NT File System (NTFS) ファイル・システムを使用する Windows プラットフォームのシステム要件を示します。FAT32 領域の要件は若干大きくなります。Oracle コンポーネントは NTFS にインストールすることをお勧めします。

この項に示す NTFS システム要件は、Oracle Universal Installer の「サマリー」ウィンドウに表示されるハード・ディスクの値よりも正確です。「サマリー」ウィンドウには、データベースの作成に必要な領域、またはハード・ドライブで展開される圧縮ファイルのサイズは表示されません。

Oracle Database Client コンポーネントのハード・ディスク要件には、オペレーティング・システムがインストールされているパーティションに Java Runtime Environment (JRE) および Oracle Universal Installer をインストールするために必要な領域が含まれません。十分な領域が検出されない場合、インストールは失敗し、エラー・メッセージが表示されます。

表 2 に NTFS の領域要件を示します。

表 2 NTFS のディスク領域要件

インストール・タイプ	TEMP 領域	SYSTEM DRIVE:¥ Program Files¥Oracle¥Inventory	Oracle ホーム	合計
InstantClient	100MB	5MB	175MB	280MB
管理者	100MB	5MB	750MB	855MB
ランタイム	100MB	5MB	350MB	455MB
カスタム (すべての コンポーネントをイン ストールした場合)	100MB	5MB *	650MB *	755MB *

* このサイズは、選択したインストール・コンポーネントによって異なります。

関連項目：『Oracle Database プラットフォーム・ガイド for Microsoft Windows (64-bit) on Intel Itanium』の NTFS ファイル・システムおよび Windows レジストリ権限に関する項

システムがこれらの要件を満たしていることを確認するには、次の手順を実行します。

1. 物理 RAM のサイズを確認します。たとえば、Windows 2003 を使用しているコンピュータの場合は、Windows の「コントロールパネル」で「システム」を開き、「全般」タブを選択します。システムにインストールされている物理 RAM のサイズが必要な値未満の場合は、追加のメモリーをインストールしてから続行してください。
2. 構成されている仮想メモリー（ページング・ファイル・サイズとも呼ばれます）のサイズを確認します。たとえば、Windows 2003 を使用しているコンピュータの場合は、「コントロールパネル」の「システム」を開き、「詳細」タブを選択して、「パフォーマンス」セクションの「設定」をクリックします。次に、「詳細」タブを選択します。仮想メモリーは、「仮想メモリ」セクションに表示されます。
追加の仮想メモリーの構成方法は、必要に応じてご使用のオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。
3. システムの空きディスク領域の量を確認します。たとえば、Windows 2003 を使用しているコンピュータの場合は、「マイ コンピュータ」を開き、Oracle ソフトウェアがインストールされるドライブを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
4. temp ディレクトリで使用できるディスク領域の量を確認します。これは、空きディスク領域の合計量から、インストールされる Oracle ソフトウェアに必要な量を引いた値になります。

temp ディレクトリで使用できるディスク領域が 100MB 未満の場合は、まず不要なファイルをすべて削除してください。削除後も temp ディスク領域が 100MB 未満の場合は、TEMP または TMP 環境変数を別のハード・ドライブを指すように設定します。たとえば、Windows 2003 を使用しているコンピュータの場合は、「コントロールパネル」の「システム」を開き、「詳細」タブを選択して、「環境変数」をクリックします。

3 ソフトウェア要件

表 3 に Oracle Database Client のソフトウェア要件を示します。

表 3 ソフトウェア要件

要件	値
システム・アーキテクチャ	プロセッサ: Intel Itanium 2 以上 注意: Oracle Database for Windows には、32 ビット (x86)、64 ビット (Itanium) および 64 ビット (x64) の各バージョンがあります。このインストール・ガイドで説明する 64 ビット (Itanium) データベース・バージョンは、Itanium ハードウェアの 64 ビット・バージョンの Windows で実行されます。詳細は、Oracle MetaLink を参照してください。 http://metalink.oracle.com
オペレーティング・システム	Oracle Database for 64-bit Windows は、次のオペレーティング・システムでサポートされています。 <ul style="list-style-type: none">■ Windows Server 2003 Datacenter Edition for 64-bit Itanium 2 Systems■ Windows Server 2003 Enterprise Edition for 64-bit Itanium 2 Systems Windows Multilingual User Interface Pack は、Windows Server 2003 でサポートされています。 Windows XP はサポートされていません。

表3 ソフトウェア要件 (続き)

要件	値
コンパイラ	次のコンポーネントは、Windows 2003 Microsoft Platform SDK 以上のコンパイラおよび Intel Compiler v7.1 および v8.1 でサポートされています。 <ul style="list-style-type: none">■ Oracle C++ Call Interface■ Oracle Call Interface■ 外部コールアウト■ PL/SQL のネイティブ・コンパイル■ Pro*C■ XDK GNU Compiler Collection (GCC)、Object Oriented COBOL (OOCOBOL) 仕様および Pro*COBOL はサポートされていません。
ネットワーク・プロトコル	Oracle Net Foundation レイヤーでは、次の業界標準のネットワーク・プロトコルと通信するために、Oracle プロトコル・サポートが使用されます。 <ul style="list-style-type: none">■ TCP/IP■ SSL 付き TCP/IP■ 名前付きパイプ

3.1 Instant Client Light の言語およびキャラクタ・セットの要件

前の項で説明した要件以外に、Instant Client Light を使用する場合、アプリケーションでは次の言語およびキャラクタ・セットを使用する必要があります。

- **言語:** アメリカ英語
- **地域:** Oracle でサポートされる地域
- **キャラクタ・セット:**
 - シングル・バイト
 - * US7ASCII
 - * WE8DEC
 - Unicode
 - * UTF8
 - * AL16UTF16
 - * AL32UTF8

言語、地域およびキャラクタ・セットは、NLS_LANG パラメータによって決まります。このパラメータは、HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥HOMEID¥NLS_LANG サブキーの下のレジストリに格納されます。ID は、Oracle ホームを識別する一意の番号です。

注意： AL32UTF8 は、XMLType データに適した Oracle Database キャラクタ・セットで、IANA に登録されている標準の UTF-8 エンコーディングと同等です。このエンコーディングは、有効なすべての XML キャラクタをサポートしています。

Oracle Database データベース・キャラクタ・セット UTF8 (ハイフンなし) と、データベース・キャラクタ・セット AL32UTF8 またはキャラクタ・エンコーディング UTF-8 を混同しないでください。データベース・キャラクタ・セット UTF8 は、AL32UTF8 に置き換えられています。XML データに UTF8 を使用しないでください。UTF8 はバージョン 3.1 以前の Unicode のみをサポートし、有効なすべての XML キャラクタをサポートしているわけではありません。AL32UTF8 にはこのような制限はありません。

XML データにデータベース・キャラクタ・セット UTF8 を使用すると、潜在的に致命的エラーの原因になったり、セキュリティに悪影響を及ぼす可能性があります。データベース・キャラクタ・セットでサポートされていないキャラクタが入力ドキュメント要素名に表示される場合、置換文字 (通常は「?」) に置き換えられます。これにより解析が終了し、例外が発生します。

4 Oracle Database Client ソフトウェアのインストール

次の項では、Oracle ソフトウェアのインストール方法を説明します。

- [製品固有のインストールのガイドラインの確認](#)
- [Oracle Database Client のインストール手順](#)

4.1 製品固有のインストールのガイドラインの確認

Oracle Universal Installer を起動する前に、次のガイドラインを確認してください。

- このリリースからコンポーネントをインストールする場合、以前のリリースの Oracle 製品にある Oracle Universal Installer を使用しないでください。
- Oracle Database Client がすでにインストールされている Oracle ホーム・ディレクトリに Oracle ソフトウェアを再インストールする場合は、再インストールを開始する前にインストールされたコンポーネントも再インストールする必要があります。

4.2 Oracle Database Client のインストール手順

Oracle Database Client をインストールするには、次の手順を実行します。

1. Oracle コンポーネントがインストールされているコンピュータに、Administrators グループのメンバーとしてログオンします。

Primary Domain Controller (PDC) または Backup Domain Controller (BDC) にインストールする場合は、Domain Administrators グループのメンバーとしてログオンします。

2. Oracle Database のインストール・メディアを挿入して、client ディレクトリに移動します。または、インストール・ファイルをダウンロードまたはコピーしたディレクトリに移動します。

サポートされているすべての Windows プラットフォームに Oracle Database をインストールする場合、同じインストール・メディアを使用します。

3. setup.exe をダブルクリックして、Oracle Universal Installer を起動します。
4. 「ようこそ」ウィンドウで「次へ」をクリックします。
5. 「インストール・タイプの選択」ウィンドウで、使用するインストールのタイプ (「InstantClient」、「管理者」、「ランタイム」または「カスタム」) を選択し、「次へ」をクリックします。

6. 「ホームの詳細の指定」ウィンドウで、次の手順を実行します。
 - **名前**: Oracle ホームの名前を入力します。

既存の Oracle コンポーネントがインストールされているコンピュータに Oracle Database Client をインストールする場合でも、新しい Oracle ホームにインストールします。

Oracle Database Client 10g リリース 2 (10.2) ソフトウェアを、Oracle9i またはそれ以前のソフトウェアを含む既存の Oracle ホームにインストールしないでください。同じホームに Oracle Database がインストールされていないかぎり、Oracle Database Client 10g リリース 1 (10.1) ソフトウェアを含む既存の Oracle ホームに Oracle Database Client をインストールできます。
 - **パス**: Oracle ホーム・ファイルのディレクトリの場所を入力します。パス名には空白を含めないでください。
7. 「次へ」をクリックします。
8. 手順 5 の「使用可能な製品コンポーネント」ウィンドウで「カスタム」を選択した場合は、インストールするコンポーネントを選択して、「次へ」または「インストール」をクリックします。
9. 「製品固有の前提条件のチェック」ウィンドウで、Oracle Universal Installer で見つかったエラーを修正し、「次へ」をクリックします。
10. 「サマリー」ウィンドウで、インストールされているコンポーネントのリストを確認し、「インストール」をクリックします。
11. 「管理者」、「ランタイム」または「カスタム」インストール・タイプを選択した場合は、手順 12 ~ 20 に従って、Oracle Net コンフィギュレーション・アシスタントの手順を実行します。

「InstantClient」 インストール・タイプを選択した場合は、手順 21 に進みます。インストールの完了後、『Oracle Database Client インストール・ガイド for Microsoft Windows (64-bit) on Intel Itanium』の Oracle Database の Instant Client または Instant Client Light への接続に関する項の手順に従ってデータベース接続を構成できます。
12. 「Oracle Net Configuration Assistant: ようこそ」ウィンドウで、「標準構成の実行」を選択してデフォルトの構成を使用するか、「ネーミング・メソッドの構成」オプションを使用します。「次へ」をクリックします。(以降の手順では、ネーミング・メソッドを使用していることを前提とします)。
13. 「ネーミング・メソッドの構成 - メソッドの選択」ウィンドウで、使用するネーミング・メソッドを選択し、「次へ」をクリックします。

ほとんどの場合、「ローカル・ネーミング」で十分です。
14. 「ネット・サービス名の構成 - サービス名」ウィンドウで、接続するデータベース・サービスの名前を入力します。「次へ」をクリックします。

たとえば、sales という名前のデータベースに接続するには、sales と入力します。
15. 「ネット・サービス名の構成 - プロトコルの選択」ウィンドウで、選択したプロトコルに応じて適切な情報を入力し、「次へ」をクリックします。
16. 「ネット・サービス名の構成 - TCP/IP プロトコル」ウィンドウで、Oracle データベースがインストールされているコンピュータのホスト名を入力します。ポート番号を指定して、「次へ」をクリックします。

たとえば、shobeen というコンピュータに接続するには、shobeen と入力します。

17. 「ネット・サービス名の構成-テスト」ウィンドウで、「はい」をクリックして接続のテストを実行します。「次へ」をクリックします。

Oracle Universal Installer のダイアログ・ボックスに表示されるデフォルトのユーザー名とパスワードが、ターゲット・データベースのユーザー名とパスワードと一致しないため、ほとんどの場合、テストは失敗します。「ログ・インの変更」をクリックし、ユーザー名とパスワードを再入力して、「OK」をクリックします。

18. 接続ウィンドウで「次へ」をクリックします。
19. 「ネット・サービス名」ウィンドウで、使用するネット・サービス名を入力します。
20. 残りのプロンプトに回答して、構成を完了します。
21. インストールの終了ウィンドウで「終了」をクリックし、「はい」をクリックして Oracle Universal Installer を終了します。
22. インストール・プロセスで作成された一時ファイルを削除する場合は、オプションで OraInstalldate_time ディレクトリを削除します。OraInstalldate_time ディレクトリは、約 50.5MB のファイルを保持しています。このディレクトリは、TEMP 環境変数によって設定された場所に作成されます。

コンピュータを再起動すると、OraInstalldate_time ディレクトリも削除されません。

5 インストール後の作業

Oracle Database Client を正常にインストールした後、『Oracle Database Client インストール・ガイド for Microsoft Windows (64-bit) on Intel Itanium』の第 4 章にあるインストール後の作業に関する説明で、必須およびオプションのインストール後の手順を参照してください。

6 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし一部のスクリーン・リーダーは括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。

7 サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>

<http://otn.oracle.co.jp>

注意： ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

Oracle Database Client クイック・インストール・ガイド、10g リリース 2 (10.2) for Microsoft Windows (64-bit) on Intel Itanium

部品番号 : B25682-02

原本名 : Oracle Database Client Quick Installation Guide, 10g Release 2 (10.2) for Microsoft Windows (64-Bit) on Intel Itanium

原本部品番号 : B14315-02

Copyright © 2006 Oracle. All rights reserved.

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software—Restricted Rights (June 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかえる目的で使用する場合、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万が一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Retek は Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性があり得ます。

このプログラムは、第三者の Web サイトへリンクし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。